

## かみ あそび

■ちぎって、丸めて

これな～んだ？

新聞紙、包装紙、トイレットペーパー。いろんな紙をまるめたり、巻いたり、ちぎったり、さてさてにが、できるかな。



■オモシロイタ???

四角の紙をチヨキチヨキチヨキ“おもしろいた”ができました。おもしろいたってどんないた？



## て あそび

いつもみなれているはずの手を、ちょっとみつめなおしてみました。

あれ、アレ

思いもかけない表情が…

おや、オヤ

思いもかけない動きを…

♪おやゆびまわせ  
ぐるぐるぐるのぐるぐるぐる  
ひとさしゆびまわせ  
ぐるぐるぐるのぐるぐるぐる  
なかゆびまわせ…  
くすりゆびまわせ…こゆび  
まわせ…てくびまわせ…



## ダンボール シアター

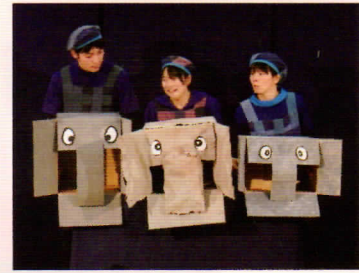
ひっこしが、あったのかな？

ダンボールがたくさんすててありました。

なにか、できないかな？

いろいろいじっていたら、

象のお話がうまれました。



## ■ぞうのエルマー

作/D・マッキー

大きなダンボールが、いろいろなぞうに生まれ変わりました。

あっ、今日もぞうのエルマーがみんなのところへやって来た！



♪ぼくはエルマー ぞうのエルマー ちょっと変わったぞうなんだ みんなのからだはぞう色だけどぼくのからだはエルマー色さ 赤、青、黄、緑、オレンジ、白に黒 ぼくはエルマー エルマー色のぞう♪♪

## ●上演にあたって

一九五〇年、東京の世田谷で生まれた劇団風の子は、「子ども」といって、どこへでも、全国各地を飛びまわり、保育園や幼稚園や児童館、小・中学校の演劇教室、子ども劇場などで公演を続けています。

幼児向けの作品は、一九六六年の「三びきのこぶた」や「つくいくさるめとかにどんたち」が最初でした。以後「うぬぼれるさき」「インソッパいそつぷ」などと続き、一九七五年には「トランク劇場」が生まれ、日本中の子どもたちだけでなく、広く海外でも公演し、言語を越えて評判を呼びました。子ども遊びを中心に、それを創造的に高めてみようという作品づくりでした。

また、俳優たちが幼稚園に園児として入園し、子どもの目の高さでものを見ることを学び、それを芝居づくりに生かした「2+3」や、子どもたちと一緒に「こっこ遊び」をしていく「こっここっこ団」など、さまざまな実験に取り組み、幼児期の子どもたちへの作品づくりを大切にしたいと考えてきました。

「小さい劇場」がうまれたのは一九八一年で、もう三十年以上がたちました。

幼児はもとより、保育園の乳児たちにも見てもらいたいと願ってつくった作品で、小さな子どもでもちよつと手をのばせばふれることができる身近なものを使い、みてくれる子どもたちの生活空間を共有しあいながら、一緒につくりあげるお芝居です。

公演活動が続けるなかで、作品も少しずつ広がり、新しいプログラムも生まれましました。どのプログラムも、子どもたちが想像力を広げたり、ふくらませたりできる遊びがいつばいです。

これからも、子どもたちと共に歩み続ける「小さい劇場」でありたいと思います。